

## キャラバンメイトの活動推進のための取り組み ～おうち時間を利用してスキルアップ～

新潟県認知症介護指導者 渡邊 真樹

キーワード: キャラバンメイト

認知症サポーター養成講座 おうち時間

### 活動の概要(活動の主体:個人、キャラバンメイト)

#### 【活動目的】

キャラバンメイトの活動推進と、認知症サポーター講座での「伝える」ことへのスキルアップ

#### 【活動内容】

コロナ禍でのキャラバンメイトとして、地域での認知症サポーター養成講座の開催が難しい中、キャラバンメイトが活動・活躍する場がない。そこで、活動の方法として「おうち時間」を利用し、家族や身近な人物にむけて、小規模な認知症サポーター養成講座を開催することにした。それにより認知症への理解やその啓発活動を行うと共に、キャラバンメイトとしての「伝える」ことのスキルアップや今後の地域での活動に対する自信につなげることになった。

### 活動のきっかけ、背景(立場:キャラバンメイト)

現在、わが自治体では30名程のキャラバンメイトが登録されているが、そのほとんどが認知症サポーター養成講座の開催や講師としての活動がなく、少数のキャラバンメイトの活動で講座が行われている。今後チームオレンジの設置や地域包括ケアへの定着への視点から、認知症サポーター養成講座のステップアップ研修は必須だが、上記の通りキャラバンメイトが少なく、そもそもキャラバンメイト資格を取得しても、講師としての自信が持てない者が大半であると考えられている。又、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、人を集めることが困難なことが予想される。そこでこのコロナ禍においてもキャラバンメイトが「おうち時間」を利用して、家庭での認知症サポーター養成講座を開催することで、小規模的に認知症への理解の広がりが期待でき、キャラバンメイトも「家族」という慣れた関係性の中なら自信を持って講座を行うことが出来、スキルアップしていけると考えた。

### 活動の経過と成果

#### 【活動の経過】

自治体のキャラバンメイト事務局の担当者と相談し、まずはオレンジリングのバラマキにならないか検討し、計画書や講座の方法について示し同意を得た。家族にも日程等スケジュールを説明し行い同意を得た。学習者の構成は40代女性・中学生男子・小学生男子である。小学生から40代と年齢に幅が広くレディネスにばらつきがあったため、40代女性と相談し、今回は小学生に対する講座に設定し、ワーク時間等も設けて、家族の団らんの雰囲気を中心とした。

#### 【活動の成果】

成果として、以前家族に認知症の人がいて、その頃の事を思い出しながら講座を進めることで学習者の理解につながったと考えられる。受講者が家族ということもあり、ゲーム性のあるワークを行うことで、楽しみながら講座を開催することが出来た。

### 今後の展望

自治体に登録されているキャラバンメイトにも連絡会等で報告を行い認知症サポーター養成講座の開催普及につなげていきたい。今後も小規模的に行うことで出前授業として、友人家庭や近所の人へ行うことで、認知症の理解が地域で深まるだけでなく、地域包括ケアの推進や、そもそもの目的である、キャラバンメイトが自信をもった活動ができる場の構築につなげたい。